

秋風しゅうふう田原坂たはらざか
(松口月城まつぐちげつじょう)

秋風しゅうふう 蕭索しょうさくたり 田原坂たはらざか

当年とうねんを 追懐ついかい すれば 感慨かんがい 生しょうず

薩南さつなんの 健児けんじ 衝天しやうてんの 気き

攻囲こうい 抜き難ぬがたし 熊本城くまもとじょう

刀かたな 搦おれ 弾たま 尽つき 吾わが 馬うま 斃たおる

無限むげんの 痛恨つうこん 過雁かがん 鳴なく

秋風蕭索田原坂 追懐当年感慨生
薩南健児衝天氣 攻囲難抜熊本城
刀搦弾尽吾馬斃 無限痛恨過雁鳴

解説 西南戦争の古戦場であつた田原坂を追懐した詩。

語釈 ※秋風しゅうふう 秋の風。 ※蕭索しょうさく ものさびしいさま。また、境遇のうらぶれたさま。

※田原坂 熊本市北区植木町豊岡一帯の地名。西南戦争の古戦場。

※当年 当時の年。 ※追懐 昔の人や出来事をあとから思い出してしのぶこと。 ※感慨 物事に深く感じてため息をもらす。 ※薩南 健児 からだが丈夫でたくましい男子。 ※衝天 意志や気力が盛んなこと。 ※攻囲 攻め囲むこと。 包圍して攻撃すること。 ※熊本城 加藤清正が改築した平山城。 明治時代には西南戦争の戦場となつた。 ※無限 限りのないこと。 ※痛恨 たいへんに残念であること。 ※過雁 空を飛んでいく雁。

通釈 秋風が物寂しく吹く田原坂。 当時を思い出すと、深く感じてため息をもらしてしまふ。 薩南のたくましい男子は、意志や気力が盛んで、熊本城が包圍され攻撃を受けても刀は折れるまで、弾が尽きるまで、馬が斃れるまで戦い、そして、敗れた事は大変に残念なことであつた。 いまこの地に立つと、空を飛んでいく雁が鳴きながら過ぎ去つていくのだ。